

# 未来を描いた力に火を

## 病抱えても「希望持てる」

研修医江田さん（香南市）

本県で20日、東京五輪の聖火リレーがフィナーレをシター……。県内を2日にわたって巡った聖火は人々の迎えた。人生を振り返った歩者、明るい未来を描く。思いをつなぎ、土佐路を後にした。（1面参照）

2日目の出発地、南国市の第1走者は高知大学医学部付属病院の研修医、江田仁海さん（27）香南市野市町。病気を抱えながら働く2児の母親、治道の拍手を浴びて走り、これからは

人に応援される人であつた。土佐弁が分からなかったら、聞いてほしい。医療従事者向けに、顔を上げてほしい。神戸市出身、人の役に立つ仕事を「入った吐き気をもよおす」「ふたふたする医学部に進学し、産婦人科医が小児科医になる言葉を手とめ紹介する。パリパリ仕事があるユニークな取り組み、強い眠気で日常生活に支障をきたす、あま

り知られていない病気が、見た目は分からず、急いでいると誤解されやすい。原因は不明で、薬による対症療法しかないと言われた。憧れていた診療科は、当番や手術など勤務時間が不規則。この病気で、務められない。未来を断たれ、落ち込んだ。家族や恋人の先輩に「焦らず、ゆっくり」と諭され、留年を決めた。一人旅、カフェでアルバイト、フリーザードフラワー作り……。気の向くまま、これまでやってなかったことにチャレンジした。

自分を見つめ直す時間を持ったことで、人間に頼ってもいいんだと気づいた。自分の範囲の全力を出せばいいんだ。やっぱり医師の一言がきっかけだった。この日の朝、スタート地点で夫と、0歳と2歳の息子たちが大きく手を振っていた。足取りも軽く、20層を駆け抜けた。たどえ、へこたれることがあっても、新しい夢や希望を持つことができる。息子が大きくなったら、そんな私の思いを伝えたい。穏やかな笑顔で語った。（榎井里美）



憧れていた診療科は、当番や手術など勤務時間が不規則。この病気で、務められない。未来を断たれ、落ち込んだ。家族や恋人の先輩に「焦らず、ゆっくり」と諭され、留年を決めた。一人旅、カフェでアルバイト、フリーザードフラワー作り……。気の向くまま、これまでやってなかったことにチャレンジした。自分を見つめ直す時間を持ったことで、人間に頼ってもいいんだと気づいた。自分の範囲の全力を出せばいいんだ。やっぱり医師の一言がきっかけだった。この日の朝、スタート地点で夫と、0歳と2歳の息子たちが大きく手を振っていた。足取りも軽く、20層を駆け抜けた。たどえ、へこたれることがあっても、新しい夢や希望を持つことができる。息子が大きくなったら、そんな私の思いを伝えたい。穏やかな笑顔で語った。（榎井里美）